

白子川 源流通信

2010年4月 第29号

「白子川源流・水辺の会」の会報誌

- 投稿「みんなの白子川」
- 新会員紹介
- 定例活動 報告
- 連載「大泉に越した頃の話」その5

白子川

(その3)

ぶん 東谷 篤・え 萩原 和雄
掃除する二人のおじさん



気になりながら、声をかけられなかった人がいた。井頭公園を掃除している練馬区北部高齢者福祉事業団のお二人。お話をうかがってみると、実にたのしい。話が次から次へ。週3回、朝から掃除をする。落葉の季節は弁当持ちで6時間、桜の季節は5時間、1~3月半ばは4時間働く。公園にはいろんな人が訪れるという。太極拳やラジオ体操の人、養護学校の生徒たち、子供連れのお母さん。中には遊び道具や弁当、ペットボトルを置きっ放しにする人もいるが、自分たちは利用者に文句は言えない。それでもこの公園は「優等生」だと胸を張

る。背の高い方、78歳の吉永さんは、東京タワーが建つ頃に熊本から上京、建設現場の仮枠の仕事をして一度目の定年を迎えた。今は平和台からの通い。一方の74歳の田中さんは、車のラジエタやマフラーを東京から関西や博多方面へ運んでいたという。東久留米から通ってくる。今の仕事の定年は80歳。掃除が終わったら家に帰って一杯やるのが楽しみ。「私らも時には川に入り、ゴミを拾うんだよ」。気持ちのいい公園にゆったりと流れる時間は、このお二人によって保たれているのかもしれない、そんなふう思った。

※取材後、この4月からはお二人の勤務地が変わりました。

定例活動 報告

□白子川源流域のようす
★冬から春にかけて

水量は？

寒い時期の源流域は水量が減り、一時期はひどい渇水の状態に陥っていた。1月2月の源流部は水がないので、測定不能。しかし、井頭堰から下は、細々と水の流れがあった。こんなに干上がった源流部でも、その下では地下水が湧き出ている。そして、地盤が下った堰の下辺りから、少しずつしみ出してくるらしい。その後、まとまった雨のおかげで、3月には徐々に水量を回復し、桜の時期には、花びらを浮かべた美しい川の流れを見せてくれた。

生きものたちは？

1月渇水のと看、井頭橋の下に出来た溝には、小魚が枯葉の陰に隠れるようにたむろしていた。

2月の一番ひどい渇水のと看も、源流部の枯れたカンがレイの根っこに絡まるように、ザリガニがひそんでいた。木道の下では、産卵のために出てきたアズマヒキガエルのなき声が響いていた。

3月水が戻った源流部には、多くの生きものたちが春の息吹を感じさせるように生息していた。

オタマジャクシ、アメンボ、クロメダカ、ホトケドジョウ、ギンブナ、アメリカザリガニ、マガモのつがい



春先の川縁、オランダガラシ(クレンソウ)の白い小花がもう咲いていた。

わき水の中は、あったかいよ！
でも、水がへると、つめたくなるな。

源流域・水の測定データ

測定地点	日 天気 気温 項目	12/27	1/24	2/28	3/28
		°C	6.0	9.1	9.5
源流部	水温°C	12.5	-	-	15
	水深cm	17	みぼろ！	みぼろ！	21
	PH	5.8	-	-	5.6
井頭橋	水温°C	15.5	15.5	9.4	13.9
	水深cm	24	24	11	32
	PH	6.1	6.1	7.4	5.8

上記は、毎月記録している測定データのほんの一部。このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量なども測定。-は、測定不能の意。

活動記録

- 12/ 5 金属工房セブンポイント鞆(ふいご)祭り参加
- 12/16 『源流通信』第28号発行
- 12/17-23 練馬区都市整備公社展出演
- 12/27 定例活動 (正月メッセージ揚げ、紙コップキャンドル)
- 1/24 定例活動 (お汁粉、倉庫設置)
- 2/28 定例活動
- 3/13 まちづくりセンター 平成21年度活動助成事業報告会
- 3/15 練馬区第四土木出張所訪問、大泉南小学校打合せ
- 3/28 定例活動 (第1回 地域みんなて川掃除イベント)

□活動のようす & ひとこと



12月・・・年末年始、川の
装い・感謝の垂れ幕
をかけた。



2月濁水時の源流部。カンガレイの根掘り
作業は、まるでお百姓さんのようだ。



3月水が戻った！生きもの探しの人で賑
う。
一桜の花の下、豊かな水の流れの中を水
質調査やゴミ拾いに。

1月・・・活動の後に恒例、うれしいお汁粉のふるまい。

2月・・・水がないこの時こそ、木道近くに繁茂しすぎたカ
ンガレイの整備。

3月・・・初参加者で活気あふれる！イベント川掃除のチ
ラシで来てくれた U くん親子。白子川をイメージし
て、木の作品を制作するという水のアーティスト S さ
ん。ねりま NPO ニュース取材の M さん。

新会員紹介 ☆ 中村 東蔵

昭和 19 年 7 月東京生れ
東京大空襲で長野県高遠に疎開

高校卒業まで南アルプスの麓、高遠で育ち
ました。天竜川の支流「三峰川」の清流が遊
び相手でした。通学の行き帰りに橋の上から
川の流れに目を転ずれば、必ず魚影を目に
する事が出来る豊かな自然がありました。

*

昭和 49 年大泉に移り住み、子供の成長と共
に井頭公園は生活の一部でした。そこにあつ
た白子川の記憶は余りきれいでない川のイメ
ージが残っております。昨今は、下水道の整
備と共にゴミが取り除かれ、きれいな水流にな
り川底がすけて見えます。しかし、魚の姿を目
にする事が出来ません。なぜでしょう。



私は「白子川源流・水辺の会」の活動に注
目し参加させていただくことになりました。

今、日本の自然界の動物・人間の生態系に
異状が発生しています。農薬や家庭雑排水
が河川・海を汚染し自然界の生態系を狂わせ、
日常、大量に使用されている石鹼・洗剤類に
含まれる危険な石油系合成界面活性剤が人
体を汚染、他国に例を見ないアレルギー疾患
やアトピー性皮膚炎、悪性腫瘍、生殖異常等、
原因となっているといわれています。このこと
は一般に余り知らされていません。

*

私は「白子川源流・水辺の会」の活動を通し
て、少しでも未来の子供達の為に役に立ちた
いと願っています。



大泉に越した頃の話(その5)

池野 明男

大泉物語——近過去の(二)

私が初めて大泉に来たのは戦中の時、遠足での訪問ということとは前稿で述べた次第です。かつては他県は別として都内、否、練馬区内の人でも通学や通勤以外、余程の用件か知人や親戚訪問かビジネスならとも角、態々来る人は余りいなかったものと思われませんが、今や二十三区西部で唯一の大商業ゾーンに成長しました。それは数十年前の都市再開発により、駅前広場(特に南口ロータリーのような、バスセンターや人工歩道が特色)が整備されたわけですが、以前は南西口(バルコ側)の踏切は「車人一体」の大混雑道路で、特に駅前から学芸大附属校前を経て富士街道に至る駅南口近くは某民間駐車場の塀の道路際のバス停には乗客が車道の端に一列に並んでバス待ちをする状況で大変でしたし、旧富士見通りは、臨時公共駐輪場はあるものの放置自転車が一我

が物顔」で散乱し、人口増加著しい郊外駅と云いながら混沌極まりない有様でした。この街が今や南北二棟の大再開発ビル(下層が商店街で上層がUR旧住宅公団)の住居階の「ゆめりあ」第一、第二が完成し、南東端のビルの二階を出て北側方面を望見すると、地下立体トンネルと共に大小のビル群が構成する新しい都市空間が現出します。またまた私の「独断と偏見」で恐縮ですが、勝手に「大泉マンハッタン」と呼んでいます。

大泉学園駅(旧名「東大泉駅」)北東側に東映東京撮影所(一名「トリスアツ」)があり、その昔は、その関係者やアクターやスタッフの人達の乗降が主体だったところですが、今や多くの通学、通勤、買い物客を取り込み、西武池袋線では池袋、所沢に次ぐ乗降客のナンバー一、二、四を争う大駅に発展しています。かつては、旧武蔵野鉄道(西武鉄道の総師だった初代堤社長の発案で、神田にあつ

た国立二橋大学の誘致を計りましたが、大学側の国立への移転で以降は「学園駅」の名称は一時「名ばかり」に



また大泉で有名な所は、一生「植物」を研究し誰よりも花を愛し花と俱に逝った植物

なっていました。しかし、ここは大学こそ来ませんでした。大泉周辺には公立高校が二校、中学校は北側でも数校をかぞえ、南側では、国立学芸大附属小中校、都立大泉高校、都立社会福祉総合学院、石神井学園、旭出生産学園、区立大泉第二中、駅北側には名門区立大泉中があります。また特筆すべきは、大泉教育では先駆けの区立大泉小学校で、明治初期(一八七〇年代)に寺小屋だった妙延寺の学寮が明治七年豊西小学校(東京府・郡立)となり、同九年に公立の「大泉小学校」となった由です。因みにこの校の「分教場」(分校)が大泉第二小学校となったそうです。大泉第二小の開設には官民あげての尽力があったとのこと。よって大泉学園駅は、今や文字通り「学園駅」にふさわしい駅でしょう。

分類学では「東洋のリンネ」と称され本邦、植物学の大先達牧野富太郎博士の旧邸跡の区立「牧野植物園」(残念ながら現在改装休園中)は余りにも有名です。今こそ住宅開発で周囲をアパートや住宅で囲まれてはいるが、ここはかつての武蔵野の風景やたたずまいが残る素敵で貴重なゾーンです。私は延べ十数回訪れています。この世界的大学者の研究生活を送った住居が余りにもつましい情況に胸が痛みます。

またこの駅はアニメーションの元祖としても有名になっています。それはかつて大泉周辺に住んだ、多くの漫画家やその卵が育つていったことと、「トリスアツ」の右前に東映動画研究所があり、時々アニメ主体の色々なイベントが催されているからです。大泉のことを云うと、「トリスアツ」を省く訳にはいきません。東映東京撮影所については次稿に譲りたいと思います。

これはさておき、ここ大泉には再開発一棟「ゆめりあ1」には上層には展示ホールや音楽、芸能ホールがありここ大泉からの文化発信基地になっているのも頼もしい限りです。大書店もある「ゆめりあ2」では年一回「ロビー写真展」が催され、またエントランス(入口)前の小広場でもポピュラーやジャズのライブ、吹奏楽等々のコンサートがあり、私も日時が許す限り参加し、楽しみにしています。(つづく)

(次号は「大泉文化の大泉」と「トリスアツ」を書きます)

みんなの 白河川

永井 薫

争い事もめ事に巻き込まれた時の解決法には、四つの方法があるとされています。

その 1. 競合する・・・自分の意見を通して、結果相手を犠牲にする方法（競合する側は、押し並べて、押しが強い・声大きい）

その 2. 譲歩する・・・相手の要求をのむ方法（譲歩する側は、押し並べて、相手に弱みを握られている・世帯にあっては収入が少ない）

その 3. 妥協する・・・双方が納得できる“落としどころ”で決着する方法（通常は最後の手段だが、概して、争うことを極力避けようとする性向を美德とする日本人がよく使う手）

その 4. 回避する・・・何となく争点をうやむやにし、何も無かったことにしてしまう方法（説明責任の放棄を意味し、概して、危うきに近寄らない君子と鼻が利く頭の良い人間がよく使う手）

どの解決法を選択するかについては、争い事もめ事の内容にもよるでしょうが、大家と店子、上司と部下といった立場、立ち位置によって、競合したり譲歩したり、と変わり身の術を使うこともあるでしょうし、“関係各位”？の性格や日頃の関係性によっても異なってくるのかもしれませんが。

ところで、解決方法は、ホントにそれだけでしょうか。

確かに、物事を解決するには、押すか、引くか、折り合いをつけるか、目くらましするか。因みに、巧みに前提条件を差し替えると誰も気付かないうちに争点がなくなっている、ハタマタ、争点をもう一つぶっつけてシャッフルすると突然争点が消えていた、という事実については、議論の最中多くの人が経験していることだと思います。

さて、解決パターンには上記四つに加えて、実はもう一つあるのではないかと、最近考えるようになりました。

少なくとも有史以来の成熟した社会に身を置いている今、一人ひとりが成熟した生き方を求めることができる社会であるためには、足元の問題解決から、地球規模の課題解決まで、“関係各位”の英知を十分に活用することが重要で、そのためには、それに見合った解決法が必要なのではないかと、その1でも、その2でも、その3でもない解決法が。

全国一斉

身近な川の一斉調査

6月6日(日) 9時～12時
大泉井頭公園(井頭橋) 集合

*

水質・水量・水温・生物・川幅
などを調査します。

第10回 定期総会のお知らせ

6月20日(日)午後
東大泉地域集会所

◎この1年と10年を振り返り、新たにスタートする大切な会合です。

◎会への提案や思っていることなどをみんなで検討する場でもあります。(後日、詳細をご案内します)

“関係各位”がお互い譲歩せず、“関係各位”がお互いに主張し合い、“関係各位”の利益がお互いに最大となるよう働きかけ、コミュニケーションを取り、協力し合っ、お互いを統合していく方法。

そう、それが、“コラボる”“コラボレートする”“collaboration”ということではないでしょうか。“コラボレーション”は、他業種(異なる分野)の人達が協力するという意味でよく使われますが、本来その意味するところこそが、最上ランクに位置される解決法ではないかと思えます。

一人ひとりが成熟した生き方を求めることができる社会とは、一人ひとりが居場所や出番を見出すことができる社会であり、そのためには、問題や課題に対して、対話し、共鳴し、一緒に行動し、新たな関係性を作り出し、解決していく、そのような在り方こそが最善であると考えます。

今年、白子川の源流部は、年明けから3ヶ月近くにわたり濁水状態が続き、異臭が立ち込め、捨てられたゴミが更なるゴミの投棄を呼び、“親水”とは程遠い状況でした。

そんな惨憺たる状態にありながらも、源流部に生きる生物と植物は、本当に“健気(けなげ)”で、3月28日の定例調査では、ホトケドジョウやギンブナが観察されました。

ワンオブゼム(one of them)、たくさんの中のひとつ、と訳せばいいでしょうか…。

市民社会における一人ひとり、コラボする主体である“関係各位”、それは決して人間ばかりではありません。源流部に棲む、白子川の仲間たちも、当然 one of them の one です。これは、プレート“みんなの白子川”のネーミングの由来でもあり、また、水辺の会の活動スタンスそのものです。

年々、濁水状態が長引く傾向にある現状に対し、源流部を愛する地域の多くの住民や行政とともに、水辺の会が源流部の住人達の意向を代弁しながら、今後、如何にコラボレートして、WinWin の関係を構築できるのか、今、一人ひとりが試されているのではないでしょうか。

水辺の会会員諸氏のお考えは如何???!!!



遊水 理水 知水
〈書・竹内流花/わら筆〉



第10回 白子川源流まつり 10月24日(日) 午後

会員のみなさん、行楽シーズンのさなかですが、会員の手を借りねば出来ない祭りなので、ぜひぜひ空けておいてください。
(ちなみに、練馬祭りは10/17です)

アズマヒキガエル

ガマガエルともいわれる大型のカエルで、腹が白黒のマダラ模様。春先、寒天のようなひも状の卵の塊を産む。現在オタマジャクシになって源流部にたくさん見られる。

卵を産んだ親ガエルはやわらかい土の中か、石の下などに入ってお休みするので、休み場所の確保をしてあげよう。けして土の中から掘り出したり、かくれ石を動かしたりしないでね。

夏から秋にかけては陸の藪の中などにいる。夜行性で昆虫などを食べている。耳の横から毒液を分泌する。

右の写真は、3月末の定例活動で発見したアズマヒキガエル。湧水のため逃げ場を見つけられず干上がってしまったようだ



これで 川作業が効率UP!



伸ばして川に降りる

伸縮ハシゴを
2脚購入しました



〈時事川柳〉

「エコ エコ」と 過激なエコが ゴミ増やし
猫の牝 子供を産むと 母になり

E. T. 生

■今後のスケジュール

- 5/22 竹炭・わら筆・焼印・表示板づくり
午後1時～ 《運営会議：午前》
- 5/23 定例活動
- 6/ 6 一斉調査 午前9時～
- 6/20 定期総会 午後1時～
- 6/27 定例活動
- 7/25 定例活動
- 8/22 定例活動

☆定例活動：午後1時～

会員募集中

http://www.geocities.jp/sirako_river/
(「白子川源流・水辺の会」と検索)

編集後記

▼冬眠していたカブトムシの幼虫が目覚める春。腐葉土の中で丸々と太った姿に、妙にカワイさが湧く。初夏、羽化したての白いカブトムシを見たら、井頭の森に帰そう。それまで、つかの間の虫愛ずる姫君(?!)、否、乳母にでもなろう。(さ)

▼この春、作家・椎名誠さんの講演を聴く機会があった。経験に基づく話には押しつけがない。「地域ごとで価値観が違うから多くの文化を知ってほしい」とあった。いいと思っても、と一ぜん違う人もいるわけだ。そう、違う人もいる、驚いてはいけない!(け)

※この会報は年3回発行です。

発行 白子川源流・水辺の会
 編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
 題字 宮本沙海
 発行部数 1000部
 代表 菅沢 博 03-3923-8430
 練馬区南大泉1-10-5
suga-lohas@jcom.home.ne.jp